

都小音研

平成31年3月7日第61巻430号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都世田谷区松原5-43-26
世田谷区立松原小学校

つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を

平成31年1月25日、新宿区立新宿文化センターに於いて、第61回「東京都小学校音楽教育研究会研究大会」が開催されました。

今年度の大会は、次年度に東京都で開催される「全日本音楽教育研究会全国大会東京大会（総合大会）」を見据えたプレ大会の意味合いも込めて、各種研究会による研究授業と研究発表を行いました。全都の会員で構成されている各種研究会は、日頃は、研究会ごとに様々な領域・分野の専門的な研究実践を行っていますが、今年度は本大会での発表に向けて、全各種研究会による合同研究会も開催し、大会主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」の下、熱心な協議を重ね共通理解を図りながら研究を進めて参りました。

新学習指導要領では、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」について示されました。また、資質・能力の育成に当たっては、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習活動に取り組む、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められています。

第61回研究大会では、新学習指導要領の主旨をふまえた研究を進め、当日は、多くのご参会の先生方の視線も励ましとなり、児童一人一人が音楽としっかり向き合い、感性を働かせて協働した学びを創る姿を見ることができました。

児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせ、自己のイメージや感情と関連付けながら音楽を聴いたり表現したりする学習活動。また、自分の思いや意図を表現するために必要な知識や技能を習得したり活用したりする学習活動、聴き取り感じ取ったことなどを交流して学びを深めていく学習活動など、のべ7つの授業会場では、自信に溢れて様々な音楽活動に取り組む児童の姿が見られました。

音楽を感じ取り自己を形成することで、新しい意味や価値を創造していく「感性」の働きと、個別の感じ方や考え方などに応じ、生きて働く概念としての「知識」。「知性」と「感性」の両方をつかい、児童が、課題解決をするために自分の頭で考え、また、他者と知の協働をしながら自分の考えを広げ深めることで、さらに新しい発想やアイデアを生みだしていくことを大切に、私たち東京都小学校音楽教育研究会は、児童一人一人が音楽としっかり向き合い感性を働かせて協働した学びを創ることで、音楽が私たちを結び付け豊かな人生を送ることができる信じ、音楽教育の歩みを止めることなく進めて参ります。そして、元都小音研会長 渡辺信夫先生が作詞をされた全員合唱『七色の鐘』の歌詞にもあるように、私たち都小音研会員一人一人が、出会えたことの不思議に感謝しつつ、生きる息吹が聴こえてくるようなときめきのある時間を共に過ごすことで、児童が、未来に七色の花を咲かせ、七色の鐘の音を鳴らすことができるよう心から願います。

東京都小学校音楽教育研究会
副会長 飯島 満子
(世田谷区立九品仏小学校長)



平成30年度 第61回都小音研研究大会

日時：平成31年1月25日(金) 会場：新宿区立新宿文化センター

研究授業Ⅰ

合唱研究会 歌唱

「旋律や音の重なりにふさわしい表現で歌おう」

足立区立辰沼小学校 第5学年
授業者 野田 茜

旋律や音の重なりにふさわしい表現を工夫して歌う学習に取り組みました。本時では、音の重なりについて個々が気付いたことや感じ取ったことをもとに、具体的な表現の仕方についてグループで意見を出し合い、何度も歌って試したり確かめたりしました。「ここは花火みたいにだんだん盛り上げて歌おう。」「気持ちが一つになるように声も一つにそろえて歌おう。」など工夫したいことを自分たちなりの言葉で表し、友達と声を合わせて歌う中で、音楽をよりよくしていこうと高め合う様子が見られました。大ホールいっぱい声を響かせようと一生懸命歌う子供たちの姿に成長が感じられ、幸せな時間となりました。ご指導いただきました清水雅彦先生をはじめ、都小音研研究部の先生方、合唱研究会の先生方、関わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



鑑賞指導研究会 鑑賞

「世界の声の音楽に親しもう」

荒川区立尾久第六小学校 第5学年
授業者 井上 奈々

諸外国の声の音楽のうち、ホーミーかケチャのどちらかを選び、音色や響き、音の重なりなどを聴き取り、それぞれの音楽の雰囲気との関わり合いを感じ取って聴く学習に取り組みました。タブレットPCを使ってグループで何度も聴いたり、まねをしたりしながら「低い声と笛のような高い音が聞こえる」「一人が『ハイハイ』と言って、大勢が合いの手を入れている」ということに気付きました。聴き取ったことやヒントカードをもとに音楽が生まれた背景を予想し、映像を視聴しました。ホーミーは一人で2つの声を出していると分かった時「えっ！」と驚きの声があがりました。ご指導いただきました宮崎進先生、事前研究や会場準備に多大なるご協力をいただきました荒川区音楽部の先生方をはじめ、研究・運営に関わってくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。



即興表現研究会 音楽づくり

「特徴のある音階で音楽をつくろう」

葛飾区立中之台小学校 第6学年
授業者 星野 朋昭

教師になって間もない頃、「音楽づくり」の教え方が分からず、即興表現研究会に入会しました。自分が学びたい、と思ったことを学べる各種研が東京にあることは幸運なことです。

大会の授業をするために、年間を通じどのように授業を組み立てていけばいいのか、考えました。音楽づくりに限らず、歌唱、器楽、鑑賞と全ての学習が今日の子供の姿につながっているのだと改めて考えさせられました。大会当日、自分のつくった音楽に価値を見出すだけでなく、友達の作品のよさを語り合う子供たちの姿は感慨深いものでした。研究は、子供たちの成長に直結しているのだと実感いたしました。

石上則子先生、研究会のメンバー、そして、運営に携わってくださった皆様のおかげで、子供たち、そして私も成長することができました。本当にありがとうございました。



指揮法研究会 歌唱

「せんりつ（せんりつ）の重なり合うひびきを感じ取ろう」

新宿区立落合第六小学校 第4学年
授業者 星 悦子

私は授業者として何度か、「指揮法研究会の授業って、どんな感じなの？」と声をかけられました。指揮は音楽会等の発表の場で児童の演奏をまとめるものという認識が一般的かと思います。指揮法研究会では、指揮で児童に音楽の特徴を伝え、表現を引き出すことを目標として、指揮を授業で活用することを研究し、実践してきました。児童が感じ取った曲想を指揮で表し、視覚的にはっきりと児童に伝える。もし、その指揮が児童の表現に有効でないと感じたら、指揮を変えてみる。そして、児童一人一人と視線を合わせ、表情や手の動きで音楽を伝え合うことは、指揮による児童との対話であると考えています。私の授業から、そのことを少しでも感じ取っていただくことができたら、大変幸せに思います。授業を参観してくださいました多くの先生方、本当にありがとうございました。



大会主題 つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を

研究授業Ⅱ

管楽器研究会 鑑賞

「トランペットの音色に親しもう」

中野区立武蔵台小学校 第4学年

授業者 澤田 梨奈

管楽器に関わる一人として、今回の題材では、管楽器の体験活動は絶対に取り入れたいと思い、そのために、鑑賞授業と管楽器の体験活動をどのようにつなげていったらよいのかを中心に協議を重ねてきました。

本時では、『トランペット吹きの休日』の特徴的な部分を聴き、旋律の動きを動作化することで旋律が繰り返されていることから楽しい感じがすることなどに気付くことができました。また子供たちは、ゲストティーチャーの生演奏を、目を輝かせて聴き、トランペットの音色や旋律の特徴のよさを味わうことができました。そして今回の授業を行うにあたり、自分自身の多くの課題も見付かりました。今回の授業を終えて、更なる授業力を身に付けていきたいと思えます。

ご指導いただきました橋本研先生をはじめ、管楽器研究会会員の先生方、都小音研の研究部の先生方に心より感謝申し上げます。



音楽授業研究会の会 鑑賞

「曲のよさを味わってきこう」

中野区立南台小学校 第3学年

授業者 守田 映実

問題解決に向かって、児童が自ら課題をもって試行錯誤し、課題を解決して、また新たな課題を見付けて『クラリネット・ポルカ』のよさに近付けるような問題解決型学習の過程を用意しました。手掛かり(アイテム)をもって聴くことで、「**ア**の続きはどんな音楽になっているのだろう?」「**ア**と**ア**の間にはどんな音楽が入るのだろう?」と、児童自ら課題を見付けて、主体的に音楽を聴き深めていく姿が見られたことがよかったです。

児童は今、手掛かり(アイテム)を見付けることも、課題を見付けることも、自分の力でできるようになる途中の段階です。やがてこれらを自力で見付けられるようにするために、教師は児童の気付きを予想し、児童の子供らしい表現を音楽の言葉につなげ、児童と共に学んでいくことが大切だと感じました。



邦楽教育研究会 音楽づくり

「日本の音楽の特徴を生かして音楽をつくろう」

荒川区立尾久小学校 第5学年

授業者 吉野 修平

『春の海』の鑑賞で感じ取った日本の音楽のよさを、音楽づくりに生かす題材構成としました。鑑賞では、専門家と交流しながら生演奏を聴き、日本の音楽のよさをより味わって聴くことができました。本時では、そのよさを生かして『春の海』の音階を用いた音楽づくりに取り組みました。箏の奏法を工夫したり、拍の揺れや間を取り入れたりするなど、様々な工夫が見られました。児童が思いをもって音楽をつくる姿を見られたことや、音楽科の特質に応じた対話的な学びが充実したことは大きな成果でした。

箏を使つての音楽づくりを一から丁寧にご指導いただきました助言者の吉原佐知子先生をはじめ、荒川区音楽部の皆様、都小音研の先生方に心より感謝申し上げます。



全日本音楽教育研究会発足50周年記念
2019年度 全日本音楽教育研究会
全国大会 東京大会 (総合大会)
2019年10月31日(木)・11月1日(金)

大会主題

「つなげよう 深めよう 生かそう ♪
未来を拓く音楽の学び ♪」

【1日目】校種別研究会 小学校部会

会場：新宿区立新宿文化センター

内容：研究授業7本・研究演奏5本・研究発表

【2日目】全体研究会

会場：練馬文化センター 大ホール

内容：研究報告・記念演奏・全体講評

児童が音楽とのつながりを深め、音楽で友達とつながり、音楽を生活に生かそうと主体的に学び、学びの深まりと音楽活動をする喜びを実感してほしいとの願いをこめ、小学校部会 研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」を設定しました。平成30年度都小音研大会の成果を生かし、各種研究会を中心とした研究発表を行います。全国の皆様と今の音楽科教育を共に考える機会にしたいと思えます。

大会報告

研究部長 石井 ゆきこ

平成31年1月25日、新宿区立新宿文化センターで第61回都小音研研究大会が開催され、約700名が参加する大盛況となりました。

今回の大会は2019年度全日音研東京大会（総合大会）に向けてのプレ大会としての意味合いを込め、都小音研の特色の一つである各種研究会を中心とした発表を行いました。

平成29年2月の各種研代表者会議で新研究主題と研究内容、大会プログラム案を検討するところから始まりました。都小音研という大きな組織で長年続いてきた研究主題を新教育課程に合わせて変えることについて、随分悩みました。何度も都研究部や各種研代表者会議で検討し、少しずつ大会の研究内容を定めてきました。新研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」には、児童がこれまで以上に主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わってほしいとの願いを込めています。大会当日の7本の研究授業（**授業Ⅰ** 合唱・即興表現・鑑賞指導・指揮法、**授業Ⅱ** 管楽器・邦楽教育・音楽授業）では、それぞれの研究会の専門性を生かしながら、音楽科における主体的・対話的で深い学びの姿を提案していただきました。授業を終えた後の児童の晴れやかな表情から、充実した授業が行われたことを確信しました。

本大会の開催にあたっては限られた予算内で行うという現実的な問題にも直面し、様々な面でご理解とご協力をいただきました。そのような中、各地区の理事の先生方にご協力いただき、大会を円滑に運営することができました。地区を越えて多くの先生方と出会い、つながる機会となった大会です。本大会の成果を秋の全国大会へとつなぎ、さらに研究を深めていきます。

講評・講演

「新学習指導要領の全面実施を見据えた音楽科の授業づくり」

研究発表終了後、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 志民一成先生より「新学習指導要領の全面実施を見据えた音楽科の授業づくり」についてのご講演がありました。



◇目標の捉え方

現行学習指導要領の目標における文言の大部分が、新学習指導要領の目標の（3）学びに向かう力、人間性等に示されている。そして「音楽活動の基礎的な能力」にあたる部分は、（1）知識及び技能、（2）思考力、判断力、表現力等に相当する。また、音楽の授業で学んだことを自覚したり、生活や社会とどのような関わりがあるか意識したりすることが、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」を育成する上で大切。

◇「音楽的な見方・考え方」を働かせる

「音楽の見方・考え方」ではなく、「音楽的な見方・考え方」というのは、音楽そのものだけではなく、自己のイメージや感情、生活や文化など、音楽の背景と関連付けて考えること。音楽に対する感性と知性の両方を働かせ、自分にとって価値のあるものとして音楽を捉えていく。

◇「対話的」な学び

「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の視点であって、それ自体が目的ではない。『対話』をすればよいのではなく、独りよがりにならず、他人の知識や頭を活用して、知の協働をしながら、さらに新しい発想やアイデアを生み出していくことが『対話的』な学び。「対話をしているか」ではなく「対話的な学びとなっているか」が重要。

◇「音を楽しむから音楽」？

「楽」という漢字自体が楽器を表す象形文字で、「音楽」を表していた。つまり「楽しい」という意味は音楽から派生したもの。「音が楽しいから音楽」であった。

音楽活動に楽しんで取り組むことも大切だが、自分なりの意味や価値、楽しさを見出しながら音楽と関わっていくことが大切。それが生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質能力に結び付いていく。

第55回 合唱祭

第55回合唱祭が、2月10・11・17日の3日間にわたって、府中の森芸術劇場どりーむホールにて開催されました。今年度は63校の子供たちが日頃の成果を発表しました。

10日・11日は、昨年度から引き続き二度目の講師の辻秀幸先生から、17日は、声楽家・望月哲也先生から、一校ずつ講評をいただきました。終了後の事後研究会では、辻先生からは、「①声を出す時は、あくびを我慢する時のように、体の中を開いて腹式呼吸をしましょう。どこを見て、どこに向かって出させるか目標をもたせましょう。②指揮は、最小単位のビートを心の中に刻みながら振りましょう。本番で歌う子供は不安で一杯です。次を示しながらどこでブレスをしたらよいか分かる指揮をしましょう。③選曲については、私がふりたい曲ではなく、これが似合う曲、この声を出させたい曲を選びましょう。④授業はお客がいるものではありません。音楽の楽しみ方を教える場所です。内なる灯をつけるのが授業です。この時代、本当に先生方大変ですが、応援しています！」と、楽しく教えていただきました。具体的な課題が明確になり、来年の目標をもつことができました。運営にあたった会員やOBの方々など3日間で150名近くの会員が参加しました。お二人の先生の専門的な発声指導と教育者としての視点をもった温かいアドバイスをいただき、明日からの指導に役立つ素晴らしい充実した研究会となりました。



合唱研究会研究部長 後藤 朋子（日野・七生緑小）

第43回東京都小学校管楽器演奏会

平成31年2月16日(土) 武蔵野市民文化会館大ホール
2月17日(日) 武蔵野市民文化会館大ホール
2月23日(土) 江戸川区総合文化センター大ホール
2月24日(日) 江戸川区総合文化センター大ホール

第43回東京都小学校管楽器演奏会が上記の日程で4日間にわたって開催され、64校が参加しました。毎年、どの学校も、1年間の管楽器活動の集大成という位置付けで演奏会に臨みます。また、指導者にとっても、管楽器研究会で研究・研修してきた学びの延長線上にある演奏会です。

第1日の一週間前、都内に降雪の予報が流れました。さらに前日には小雪が舞い、五年前の大雪による第1日中止の不安がよぎりました。しかし終わってみれば全日程滞りなく終了し、会員一同ほっと胸をなでおろしました。

当日、子供たちは、目を輝かせながら自信に満ち溢れた姿で演奏していました。これまでの練習を通して、指導者と子供たちの大事に積み上げてきたものが、演奏している楽器の音色から十分に伝わってくる、大変充実した演奏会となりました。

3月の例会は、全演奏を講評していただいたスクールバンド・サポーター 田川伸一郎先生を講師にお招きして演奏会を振り返り、様々な観点からご指導いただきます。今後の活動や次の演奏へどう生かすか、私たちにとって大切な学びの機会としていきたいと考えます。



管楽器研究会副理事長 大谷 美奈子（文京・明化小）

平成31年度 都小音研事業計画の お知らせ

- ☆ 4月25日(木) 都小音研総会・研究会(世田谷区立京西小学校)
- ☆ 7月12日(金) 学ぶ理事会(中央区立京橋築地小学校)
- ☆ 7月23日(火) 研究大会第1回拡大実行委員会
- ☆ 9月19日(木) 研究大会第2回拡大実行委員会
- ☆ 2月14日(金) 第56回児童作曲コンクール

第55回児童作曲コンクール審査結果

課題詩の部1「風と鈴と」 田口 静香 詩

- 入選 熊谷春樹（世田谷・尾山台小6年）
西永海人（世田谷・尾山台小5年）
佐藤都佳（足立・東伊興小6年）
- 佳作 岩淵 杏（港・青山小5年）
松永理央・新村杏寧（江東・平久小6年）

課題詩の部2「ぼくが いる」 小林 一恵 詩

- 入選 水田洋輔（世田谷・尾山台小4年）
梅澤聖奈・須沼柚衣（江東・越中島小5年）
梅崎理央（世田谷・用賀小4年）
- 佳作 岩淵 杏（港・青山小5年）
小林 輝（足立・東伊興小4年）

自由作品の部ア（旋律のみの作品）

- 入選 小林仁南・脇坂知里（目黒・中目黒小5年）
荻原由弓・竹下未悠・藤井みよ・
久保都琴・石黒仁野（目黒・中目黒小5年）
- 佳作 牧野克哉（世田谷・尾山台小4年）
川名和桜・山家樹里（江東・越中島小5年）
宮本麟太郎（江東・平久小4年）
金澤后桜・三浦明香（江東・平久小4年）

自由作品の部イ（伴奏等がついたもの）

- 入選【会長賞】石原 優（多摩・多摩第一小3年）
- 入選 佐藤翔太郎（江東・越中島小3年）
岸野里奈（あきる野・東秋留小4年）
嶋田瑛音（町田・南成瀬小4年）
木村歌音（町田・南つくし野小4年）
- 佳作 清水美空（江東・第三砂町小4年）
石川詩織（杉並・松庵小6年）

学校賞（3年連続して作品応募のあった学校）

- 江東・越中島 ○目黒・中目黒
○世田谷・用賀 ○板橋・高島第六
○練馬・立野 ○足立・花保 ○青梅・吹上
○福生・福生第四

♪ 2月15日に授賞式及び入選作品演奏発表会をカスケードホールにて行いました。今年度の授賞作品は入賞作品集としてまとめています。（1冊600円）ぜひ今後の作品づくりにお役立てください。購入希望の方は下記までご連絡ください。

☆問い合わせ先：事業部長 藤井 小百合
（足立・花保小）

新入役員の紹介

役員に一部変更がありましたのでお知らせいたします。
庶務 副部長：山田 まゆみ（江戸川・南小岩第二小）

♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈10月理事会〉10/18 於：松原小学校

議長：大平 要（羽村・松原小）

○会長あいさつ

○議 事

- 11・12月の行事予定について
- 平成30年度 都小音研研究会について
- 平成31年度 全日音研全国大会東京大会について
- 2020年度 都小音研ゾーン大会について
- 第55回児童作曲コンクールについて
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業 *調査 *広報

〈12月理事会〉12/12 於：松原小学校

議長：峯岸 敦子（世田谷・松原小）

○会長あいさつ

○議 事

- 1・2月の行事予定について
- 第55回児童作曲コンクールについて
- 全日小音研・都小音研合同新年会について
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業 *調査 *広報

〈2月理事会〉2/15 於：カスケードホール

議長：峯岸 敦子（世田谷・松原小）

○会長あいさつ

○議 事

- 3月の行事について
- 平成30年度 都小音研研究大会について
- 平成31年度 総会・研究会について
- 平成31年度 全日音研全国大会東京大会について
- 2020年度 都小音研ゾーン大会について
- 平成31年度 事業計画について
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業 *調査 *広報

訃 報

名誉会友 秋田誠二先生がご逝去されました。ここに追悼の意を表すとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編 集 後 記

都小音研研究大会が無事終わりました。どの研究授業も各種研究会の特色がよく表れ、来年度の全国大会につながる素晴らしい大会になったと思います。皆様お疲れ様でした。（Y）

会 報 都 小 音 研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会 長 石 橋 悟

編 集：広報部

印 刷：コウシン 03-3324-9288